

2023年8月31日(木)

老球の細道748号

8月の言葉

相馬の義父の死去からスタートした今月。大事な人が次から次へと天国へ去ってしまう。年をとるということはこういうことなのか。また、8月は広島、長崎原爆投下、敗戦と前の戦争に関わる歴史的な出来事を改めて思い出させられる。現在の「新しい戦前」と称される世界の不穏な情勢から、命の大切さ、平和の大切さを、戦い遊びが大好きな孫と共に考えた。戦争だけは経験しないで、たった一度の人生を終わりたい。孫たちの世代までも・・・。

2・読書から

- ◆「肥溜めの中にも一輪のバラの花の香りをかきわける能力がある」〈体育科教育：元シカゴブルズ H・C・フィル・ジャクソン〉：コーチはあくまでも選手のために存在する協力者である。選手の良いところを見つける高い能力が要求される。良いところはすぐにほめる。怒りは、皆が楽しくない、今という時間を失う。良い発想を失う、未来の損失である。
- ◆「いかなる場合にもまず備え、そのあとで一番大切なのは、わが身の姿勢を正しておくこと。いわばこれが人事を尽くして敬虔に天命を待つ構えじゃ。その心構えがありさえすれば、無用な短慮や悔いはない。堪忍はここから生まれて、やがてその人を守るものじゃと信じている」〈山岡荘八著『徳川家康⑩』講談社〉：バスケットの試合も準備で勝負の9割は決まるといわれている。準備しないものは、負けるための準備をしているようなものである。
- ◆「おお、私の身体よ、いつまでも私を、問い続ける人間たらしめよ！」〈『人類の知的遺産』講談社：フランツ・ファノン〉：1950年代アルジェリアの独立戦争に人生を賭した若きファノンの願望と誓いの言葉である。作者曰く「古今東西、人間の発した言葉で、この「祈り」ほど痛切で美しい言葉を他に多くは知らない」。何事も過ちとなるのは慣れたつもり。

3・新聞等から

- ◆「過去の苦しみなど忘れ去られつつあるように見えます。私はその忘却を恐れます」〈朝日：長崎市長・平和宣言からの引用〉：被爆78年、被爆者「赤い背中」の写真で核兵器廃絶を訴えた谷口稜暉さんの言葉。忘却とは忘れ去ることとなりであるが、決して忘れてはならないことがある。沖縄、広島、長崎で戦争の傷跡をかつて見て来たが、いつか孫たちにも。
- ◆「今日は、残りの人生の初日だ」〈朝日：清水先生のワクワク勉強法〉：人が何か習慣を変えたり、行動を始めようとする時は、「初日感」の出る名前と呼ぶと意欲が高まるという。
- ◆「何もやらなきゃ、失敗もしない。できることだけやっていたら、失敗しない。失敗して、失敗して、失敗して。書きなぐって、消して、思いついて、また書いて。アイデアは、きっと、そういう人たちのところに、やってくる。」〈朝日：パイロット広告〉：どんな失敗も新たな一歩となる。失敗(負け)したとき、後ろを向くか、下を向くか、前を向くか。
- ◆「覚悟とか言っている人がまず逃げる」〈朝日・朝日川柳〉：元日本バスケットボール協会会長だった偉い人がどこかの国で勇ましい発言をした。忘れてならないのは、戦争を決めた人達は前線で戦わないが、決定に関与しない下々の庶民が武器を持って戦い、死んでいく。